

国語 (現代文)

早稲田大学 文学部 1/4

<総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

例年どおり、評論2題の出題。(一)は本文が長く読みにくい文章で、(二)は本文が短いという構成も、昨年と同じ。ただし、今年は漢字の問題も含めすべてがマーク式の問題となっている。昨年のような解答の決まらない抜き出し問題が出題されなくなり、やや取り組みやすくなったのではないと思われる。

<本文分析>

大問番号	(一)	(二)
出典 (作者)	岡本謙次郎「写実について」(『岡本謙次郎 美術評論集成——運慶・ルオー・ブレイク』2025年、水声社)の一節。初出は『運慶論』(1948年、真善美社)。	渡邊雅子『論理的思考とは何か』(岩波新書 2024年)より、「はじめに」の一節。
頻出度合 ・的中等	この著者の文章が入試に出題されるのは稀である。	この著者の文章は近年の入試でしばしば出題されている。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約5100字。昨年より約600字減。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2200字。昨年より約100字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	美術論	問一	マーク	標準	空欄に入る語の組み合わせ。空欄Ⅰ・Ⅱの検討だけでは解答が決まりにくい。Ⅴが決め手となる。
		問二	マーク	標準	傍線部内容説明。傍線部に続く文脈の内容に注目する。ホがやや紛らわしいが、傍線部の「夢想された人間でなく」の説明があるニを選ぶ。
		問三	マーク	標準	空欄補充。空欄直前の内容、および第3段落の趣旨を踏まえながら、消去法で解答を選ぶ。
		問四	マーク	やや易	空欄補充。空欄の3行前の「自然の外見を無視しているわけではない」に注目する。
		問五	マーク	やや易	傍線部内容説明。傍線部の「歪曲」「痩せ細る」を説明している選択肢を選ぶ。
		問六	マーク	やや難	脱落文の挿入。各空欄に脱落文を入れてみて、最も不自然ではない箇所を選ぶ。
		問七	マーク	標準	傍線部理由説明。傍線部を含む段落の趣旨に最も即しているものを選ぶ。
		問八	マーク	難	内容合致。ホに「眼前の人間を愛すること」とあるが、そうしたことの重要性については論じられていない。
(二)	学問論	問九	マーク	標準	脱落文の挿入。空欄ハに続く部分に「それぞれの社会」の違いについての具体的説明があることに注目する。
		問十	マーク	やや難	空欄に入る語句の組み合わせ。Ⅳに、その後にある「社会全体の利益…」に対応する語を入れるのが決め手。
		問十一	マーク	やや易	空欄補充。空欄を含む部分の「日米の違いという……の体験」という文脈からロを選ぶ。
		問十二	マーク	やや易	傍線部内容説明。第8段落の趣旨に即しているハを選ぶ。
		問十三	マーク	標準	空欄補充。直前に「領域に固有の論理と思考法」とあることなどからイを選ぶ。
		問十四	マーク	標準	傍線部内容説明。文脈だけでなく、「文化相対主義」という言葉の一般的な意味も勘案して答えを選ぶ。
		問十五	マーク	標準	内容合致。消去法で答えは決まる。
		問十六	マーク	標準	傍線部と同じ漢字の選択。1「段」、2「滑」。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

難解な評論を用いた問題を中心に、演習を積んでおくとうい。本文の全体的な構造、および空欄や傍線部の前後の文脈を正確に把握するとともに、それらを通して理解したことを踏まえて選択肢を比較検討する練習を怠らないようにしよう。

国語 (古文)

早稲田大学 文学部 3/4

＜総括＞	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
古文の学力を広範囲にわたって問うオーソドックスな出題であった。				

＜本文分析＞

大問番号	(三)			
出典 (作者)	『昭憲皇太后御集』			
頻出度合 ・的中等	稀。			
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	約1820字。昨年より約750字増。		
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)			

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(三)	歌集	問十七	記述	やや易	和歌の空欄補充 (空欄に入る適切な文字列を作る。係助詞「こそ」に注意)。	
		問十八	2	マーク	やや易	文の意味 (「さうざうしく」の意味がポイント)。
			3	マーク	やや易	文の意味。
		問十九	マーク	標準	主語判定 (四箇所の傍線部の主語の組み合わせとして適切なものを選ぶ)。	
		問二十	マーク	標準	和歌の内容説明。	
		問二十一	マーク	標準	筆者把握 (本文の筆者と同等の身分の人物を選ぶ)。	
		問二十二	マーク	標準	内容合致。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

古文の知識を広く身につけ、文章を細部まで丁寧に読み進めていく力を養成しておくこと。和歌の学習も怠らないこと。

国語 (漢文)

早稲田大学 文学部 4/4

<総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

昨年度同様に長めの文章の出題であった。ただ昨年度あった段落分けが今年度は見られなかった。昨年度は日本漢文であったが、今年度は宋代の作品から出題された。設問は6題で昨年度より1題多くなり、抜き出し問題が昨年度同様1題あった。設問は内容説明の問題、書き下しの問題、理由説明の問題、語句の意味の問題、抜き出しの問題、内容合致の問題とオーソドックスであった。例年、設問に関わる箇所は白文もしくは返り点のみ施されていることが多いが、今年度も例年通り訓点の省略が見られた。

<本文分析>

大問番号	(四)
出典 (作者)	洪邁『容齋二筆』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 374字。昨年より30字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(四)	史論	問二十三	マーク	易	内容説明の問題。受身形「為～所～」に注意する。
		問二十四	マーク	易	書き下し文の問題。再読文字「盍」に注意する。
		問二十五	マーク	やや難	理由説明の問題。顔真卿と司空図の行動や結果の差異に着目する。
		問二十六	マーク	標準	語句の意味の問題。「陽」が「いつわる」の意味で用いられていることを捉える。
		問二十七	記述	やや難	抜き出しの問題。傍線部が顔真卿について記されていることから、司空図の境遇との対比に着目する。
		問二十八	マーク	標準	内容合致の問題。それぞれの選択肢に該当する箇所の内容を丁寧に読み取る。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

漢文の基礎知識を徹底的に身につけ、緻密な読解力を養成する必要があるのはいままでもないが、設問に関わる部分の訓点が省かれる傾向があるので、白文対策も必要である。主語・述語の関係など漢文の基本構造を読み取ることや、漢文独特の漢字の使い方などにも留意しておきたい。また、漢詩に対しても十分準備をしておくこと。